

式辞

今朝方の恵みの雨のように、幾たびかの寒の戻りや風雨を経て、今年も、新沢千塚古墳群に守られたここ北越智の地に、生命の息吹を感じる春が訪れました。

本日、この佳き日に端岡 PTA 会長様、吉藤樫友会会長様はじめ、来賓の皆様のご臨席を賜り、奈良県立樫原高等学校第50回入学式を挙行できますことは、私ども教職員一同、何よりも喜びとするところであります。

ただ今、入学を許可いたしました320名の入学生の皆さん。入学おめでとう。樫原高校の教職員を代表し、心からの歓迎を伝えます。

本校は、昭和50年ここ北越智の地に、校訓「克己」を掲げ開校し、本年、創立50周年を迎えることとなりました。その間、1万7千人余の卒業生を輩出し、各界で活躍しています。入学生の皆さんも、これから3年間、校訓「克己」のもと、自らを磨き、大きな成長を遂げ、これからの社会の担い手の一員となることでしょう。

そんな皆さんに、本校のスクールミッションをもとに、期待することを二つ述べたいと思います。

一つは、ここ樫原高校で「物事を多角的に見る力と多様性を理解する力を磨く」ということです。つまり、高校3年間で、幅広い見方や考え方、そして、柔軟な感性を身につけてほしいと考えています。

今、世界に目を向けると、いまだ市民をも巻き込んだ戦争や紛争が続いている地域があります。こういった問題を考えるにあたっては、地政学的な状況や、複雑な歴史上の背景、さらには当事者それぞれの考えを理解することが必要です。さらに、それらの事情を超えて、「人道上」という観点も必要でしょう。しかし、現実には、共通の普遍的価値であるはずの「人道上」という観点さえ、人やその立場によって異なっており、それが解決への道を難しくしています。私達の日常に目を移しても、私たち一人一人は、それぞれ異なる考え方・感じ方をもった存在です。そのような中、我々がしなければならないことは、違いを対立につなげるのではなく、互いに違いを認めあうことで、一人ひとりが自分の見方・考え方を見つめ直し、お互いをより深めていくことにつなげていくことではないでしょうか。

ぜひ、この3年間、自分や家族、学校や地域、そして国や世界で起きていることを幅広い視点で捉え、様々な価値観に出会うことで自分の世界を大いに広げるとともに、たとえ自分と価値観が違った人とでも共通の価値を見いだせる、そんな懐の深い感性を培ってほしいと思います。

もう一つは、ここ橿原高校で「主体的かつ協働的に解決する能力を身に付ける」ということです。

学校では、今、学びの変革が進行中で、これからさらに加速していくことでしょう。そんな中、皆さんには、決して受け身ではなく、能動的な学習者であってほしいと思います。

そのためには、常に、学校卒業後の自らの姿を思い描いてほしいと思います。人間は一生学び続けるのですが、従来型の「教えてもらう」「覚える」ということを中心にした学びは、実社会では、その占める割合はごくわずかとなることでしょう。

実社会の問題を取り扱うためには、問題を自分事として捉える「当事者意識」が必要で、さらに、自分だけではなく関係する人と協力して取り組む必要があります。

ぜひ、この3年間、この学校で自らが学びの当事者であることを十分自覚し、何事にも積極的に取り組んでほしいと思います。そして、より多くの人との協働が可能となるよう、グローバルなコミュニケーションに対応できる語学力やマインドセットをあわせて身につけてほしいと思います。

私達、教職員は、みなさんが3年後にここから巣立っていくそのときまで、これらの力をしっかりと身につけることができるよう全力で取り組むことを約束します。

最後になりましたが、ご臨席の保護者の皆様にご挨拶させていただきます。大切なお子様はしっかりと橿原高校がお預かりいたしました。本校の玄関には、本校が具体的に目指すところとして、「進路の第一希望の実現」と「人間力の向上」という二つを掲げています。これらのお約束をしっかりと果たせるよう、教職員一丸となって教育活動に邁進することをお誓い申し上げ、私の式辞といたします。

令和6年4月9日

奈良県立橿原高等学校 校長 山内祐司